

毎週日曜発行
2023 5/14

こども新聞 週刊がほピョンプレス

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)



地球のためにできること

着物の魅力を発信



みんなは着物を着たことがあるかな。気仙沼市の「たかはしきもの工房」は、着物の魅力を発信しながら、お客さん、地域、社員を楽しく、元気にしようとしているよ。

◇ 伝統的な着物は、着る

きょうのテーマ

「三方よし」で共存共栄を

8 働きがいも 経済成長も



のもお手入れも大変なイメージがあります。工房では、お客さんが気軽に着物を楽しめるように、着やすいデザインで、手間も簡略化した和服用の肌着を開発しました。



当初は、着物に思い入れの強い人たちの反応は良くなかったのですが、伝統と現代の感覚を組み合わせた肌着は少しずつ人気が出て、工房のヒット商品になりました。

東日本大震災では、工房も地域も津波被害を受けました。海水や泥をかぶった着物が次々と持ち込まれ、被災者の思い出の着物をよみがえらせることが、仕事再開の出発

みんな思い出

みんな動こう



北側の窓(まど)から自然光が入る明るい工場。直射(ちょくしゃ)日光が入らないため、明るさが安定して作業がしやすいほか、着物のダメージも防(ふせ)げるといふ

点になりました。震災後、廃業した縫製工場の機械と職人を引き取り、自社工場を構えました。自ら製造するようになった生産量や商品が増え、従業員も6人から29人に増えました。工房では商品の一部を別の工場に頼んでいきます。取引先が無理をしない金額で仕事を引き受けようとしているときは、自社で作った場合と同じ金額で契約していま



農産物や原材料を生産する開発途上国と、適正な価格で取引するフェアトレードの共存共栄の精神を、地域でも実行しているのです。

工房の高橋和江社長(63)は「自社製造をするようになって、工場経営の厳しさを痛感した。取引先も含めて働く人の生

活を守ることが、良い商品、地域の雇用と発展に結びつく」と言います。

高橋社長が商いのお手下にしているのは、売り手、買い手、世間よしという近江商人の「三方よし」。「誰一人割を食わないようにしたい」と抱負を語りました。

◇ 江戸時代の商人の考え方が、SDGs(持続可能な開発目標)につながるなんてびっくりだね。

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

今週の注目ニュース

16日(火) 「おくのほそ道」出発
1689年のこの日、俳人の松尾芭蕉が江戸をたち、東北、北陸を巡る旅に出たよ。各地の様子を紀行文「おくのほそ道」にまとめたんだ。日本三景の松島(宮城県松島町)は感動して俳句を詠めなかったんだって。

きょうの紙面

- 2面 イマ★どきりポート
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 くわしく学べる! こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 防災と英語 いっぺんに学ぼう